

201029024A

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移
住労働者）の HIV 感染予防対策とその介入
効果に関する研究

平成 22 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 東 優子

平成 23 年（2011）年 3 月

目 次

総括研究報告

個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）の HIV 感染予防対策
とその介入効果の評価に関する研究

・・・・・・・・・・・・・・・・研究代表者・東 優子 1

分担研究報告

1 セックスワーカーとの協働による予防介入プログラムの開発と普及
・・・・・・・・・・・・・・・・青山 薫（分担研究者）他 9

2 性風俗に係る人々の HIV 感染予防・介入手法
・・・・・・・・・・・・・・・・東 優子（研究代表者）他 19

3 関西圏の外国人（特に SW）の HIV 感染予防と介入に関する研究（1）：
京都パグアサ・フィリピン人コミュニティにおける移動研究相談事業（STI
感染予防啓発パイロット・プロジェクト）
・・・・・・・・・・・・・・・・榎本てる子（分担研究者）他 39

4 生活困難を抱える女子の性の健康に関する研究
・・・・・・・・・・・・・・・・野坂 祐子他 43

資料

別冊『平成 22 年度分担研究報告書 関西圏当事者コミュニティ・支援団
体・行政機関の協働による外国籍住民のための健康予防介入に関するパイ
ロットプロジェクト』 51

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

平成 22 年度 総括研究報告書

個別施策層（とくに性風俗に係る人々・移住労働者）の HIV 感染予防対策とその介入効果の評価に関する研究

課題番号：H21-エイズ-一般-017

研究代表者：東 優子（大阪府立大学人間社会学部 教授）

研究分担者：青山 薫（神戸大学国際交流学部 准教授）

榎本 てる子（関西学院大学神学部 准教授）

野坂 祐子（大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター 准教授）

はじめに

UNAIDS が調査会社ゾクビー・インターナショナルと組んでエイズの広がりに対応について世界の人々がどう考えているかを調査した結果が、*The Benchmark: Japan* (UNAIDS, 2010) として刊行された。これによれば、日本では 93.8% の人がエイズの広がり重要な問題として感じている一方で、自分たちの自分たちの国での問題であるにとらえていたのはわずか 30.3%（世界の平均は 63.8%）と、いかに日本人にとっての AIDS 問題が「対岸の火事」として受け止められているかが浮き彫りになっている。「日本がエイズに関して効果的に取り組んでいる」と考えていた日本人回答者も 17.2% と少ないが、注目すべきは、右下図に示された結果である。

これによれば、世界平均と日本人の回答の両方において、「男性と性行為する男性

(MSM)」「薬物注射使用者 (IDUs)」そして、本研究の対象層である「性産業従事者 (SWs)」については過半数以上が「エイズ感染にリスクがある」と回答している。なかでも、国内の回答者率が最も高かったのは、「性産業従事者 (SWs)」(80%) である。

「エイズ予防への予算はどこに焦点を当てるべきか？」との設問に対して、国内の回答率が最も高かったのもまた、「性産業従事者 (SWs)」なのである。

当該集団は、国内のエイズ対策事業の「個別施策層」に位置づけられ、こうした形でも世論形成を確認することができるわけだが、いまだ組織的かつ継続的な政策が打ち出された歴史

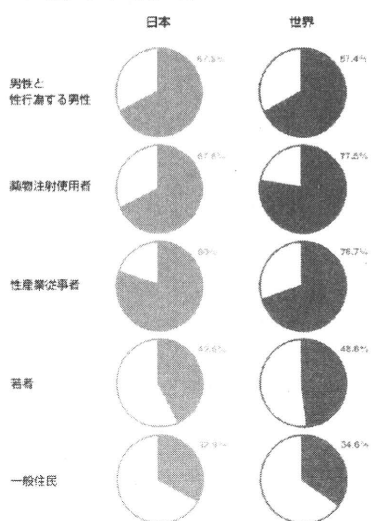
のない、いわばエイズ対策における「谷間」になっているのが現状である。

研究目的

本研究全体の目的は、「性風俗に係る人々」および「外国人」を対象にリスク行動の実態と感染への脆弱性の諸要因を把握し、有効な介入の開発実践とその評価を踏まえ、国内のエイズ対策における「谷間」を埋める新規モデルを提唱することにある。

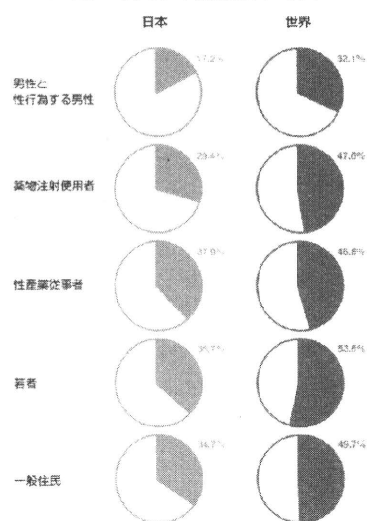
以下、4 つの分担研究課題ごとに、目的と方法を含めた研究の要約を報告する。

エイズ感染にリスクのあるのは？



6 | THE BENCHMARK: JAPAN | unaids.org

エイズ予防への予算はどこに焦点を当てるべきか？



各分担研究の概略

1. セックスワーカーとの協働による予防介入プログラムの開発と普及（分担研究者 青山薫）

本研究は、2010年度、首都圏および関西圏において、外国人SWに対する日本人SW当事者・支援者団体によるアウトリーチ活動および関係者への聞き取り調査を行った。2009年度の研究報告にあるとおり、不法性・触法性の高い外国人SWにかんしては、接近困難が短期プロジェクトで克服できるものではなく、予防介入の前提として、対象者との接触をとめ人間関係の構築をはかると同時に相談機関としての信頼を得る、長期的な視野に立ったアウトリーチが不可欠である。そして、その過程で、できる限りの当事者への聞き取り、性産業施設の経営者や中間管理者、海外からの日本への渡航を仲介する業者など関係者の聞き取りを行い、質的データを蓄積することが必要である。これらの結果から、来年度の予防介入プログラム構築に向けて、当該層への現実的な予防介入にとって何が必要か仮説を立てた。なお、アウトリーチをすすめるなかでトランスジェンダーSWとの接触が生まれ、この人びとに対する個別施策の必要も伺われるようになった。

2. 性風俗に係る人々のHIV感染予防・介入手法に関する研究：トランスジェンダーSWの性行動・意識に関する調査（分担研究者 東優子）

MtFTG（Male-to-Female＝男性から女性へのトランスジェンダー）については、社会的スティグマ、差別・偏見を背景とする複合差別ゆえの様々な「生きづらさ」に直面し、HIV感染、暴力、およびその他の健康問題を含めた様々な側面でFSWよりも高いリスクに曝されていることが諸外国の先行文献において指摘されている。しかし、現行のサーベイランス・システムにおいてMtFTGはMSMに分類されてしまうことから、その実態は正確に把握されていない。とくに先行研究がほとんど存在していない国内においては、固有なニーズについての検討と対応がなされていない状況にある。

そこで本研究では、国内における当該集団のHIV/STIsに対する感染脆弱性と予防対策および支援ニーズを把握することを目的とする調査を実施した。調査主体となったのは、SW当事者と支援者で構成されるアドボカシー団体Sex Work and Sexual Health（以下、SWASH）のトランスジェンダー・ユニット（SWASHtg）である。調査方法は、1) 自記式質問紙調査（N=43）と、2) 質問紙調査に重ねて一部の協力者（N=37）に対して追加的に実施された半構造化面接調査（分析未了）である。調査期間は2010年12月～2011年2月であった。

本稿では、1) 自記式質問紙調査の結果として、1-1. 回答者の基本的属性、1-2. ジェンダー・アイデンティティの多様性、1-3. 提供しているサービス内容、1-4. コン

ドーム使用率、1-5. 性感染症・HIV抗体検査の受検率、1-6. 性感染症の罹患経験、1-7. 仕事上の不快な経験を報告する。さらに量的調査の考察を補完することを目的として、2) 質的調査（分析未了）より、2-1. TGSWとは誰か、2-2. NHの顧客層、2-3. 保健所の検査供給率が低い理由、2-4. 戦略の有効性にみる日本とアジアの違い、2-5. 支援システムに関する当事者ニーズ、に関する調査結果を抜粋して紹介する。

3. 関西圏の外国人（特にSW）のHIV感染予防と介入に関する研究：関西圏当事者コミュニティ・支援団体・行政機関の協働による外国籍住民のための健康予防介入に関するパイロットプロジェクト（分担研究者 榎本てる子）

日本に暮らす外国籍住民が医療にアクセスできる環境を整備するために健康をテーマとしたイベント、健康フィエスタを京都市内で初めて実施した。当日は10団体が協力し、195人が来場した。プログラムとしては、HIVを始めとした性感染症や生活習慣病の情報提供及びワークショップ、健康相談、法律・生活相談、HIVを始め性感染症の検査、健康な食べ物の紹介、健康的に暮らすための運動の紹介などを行った。

外国籍住民が知らない保健所（保健センター）の保健師やスタッフと出会い、提供されている検査などのサービスを外国籍住民コミュニティの中心メンバーが経験することを通して、保健センターと外国籍住民自身、そして支援組織が継続的に連携していくことを目指した。

なお、本研究については、別冊『平成22年度分担研究報告書 関西圏当事者コミュニティ・支援団体・行政機関の協働による外国籍住民のための健康予防介入に関するパイロットプロジェクト（健康フィエスタ報告書）』としても刊行され、コミュニティへのフィードバックに活用されているところである。

4. 生活困難を抱える女子の性の健康（分担研究者 野坂祐子）

虐待等の生活環境や性非行等の問題行動を理由に児童自立支援施設への入所に至った児童の性の健康についての支援ツールの開発等を行った。昨年度、全国の児童自立支援施設の入所児童（男女中学生）を対象にした質問紙調査を実施した結果、女子の過半数が家族からの虐待を受けており、性虐待も約1割を占めていた。また、家族以外からの性暴力被害を受けたことがある女子は約4割に上っていた。対象者の平均年齢は14.3歳であったが性交経験者は6割を占め、初交年齢が12歳以下であった女子は3人に一人、また性感染症の自覚症状のあった女子は4人に一人の割合であった。こうした結果から、施設入所児童の性の健康を促進するには、虐待や性暴力の被害からの回復の支援と包括的な性教育の実施が必要であることが考えられた。よ

って、本年度は昨年度の調査結果について施設職員への説明の機会を設け、情報共有と施設内での性の健康に関する取り組みについての議論を重ねた。また具体的な支援ツールの開発として『My Step わたしのためのノート』ワークブックを作成し、施設および児童相談所で試行と評価を行った。同時に対処スキルを高めるためのグループワークと性教育を施設で実施した。これらの開発ツールやプログラムの評価検討をふまえながら、来年度は思春期の子どもの性の健康を高めるための施設内教育ガイドライン等を作成につなげる。

倫理面への配慮

本研究は、個別施策層の中でも特に、不安定な法的地位を最大の理由に人権や社会的背景に配慮した施策が必要とされる性風俗従業員と外国人を対象とするものである。当事者との信頼関係に基づく研究の実施に最大の努力を払い、研究計画は、研究者の所属機関に設置された研究倫理委員会の承認を経て実施されている。

考察

SW へのアウトリーチについては、特に外国人の場合、聞き取りや質問票に答えるとしても記録をのこされることを忌避する傾向が顕著である。法執行機関による摘発と雇用者や管理者、同僚などによる排除の両方を恐れているためである。つまり、SW 当事者を媒介者とするにせよ、ある程度な予防介入を歓迎するよりは、問題を公にせず、すでにある地下経済とのつながりでさまざまな困難を解決しようと試みる傾向になってしまう。これが予防介入はもとより、人権の保全を難しくしている。このことから、社会学的な観点に立って量的データを根拠とするプログラムを提言するよりも、マイノリティ調査に効果的な、当事者調査者の記録などをふくむ質的データを重視する方向性を探る必要があると言える。

外国籍住民の為の健康予防介入については、外国籍当事者の参加、行政機関との協働、医療機関との連携の重要性が再確認されたが、本年度の健康相談では、まだまだ効果があったのかどうかを評価することは困難であり、プログラムを改善し、継続して行なっていくことにより、外国籍住民に対するHIV、性感染症、結核などの予防介入が定着化し、受検者も増加していくことが期待される。持続可能な形の介入プログラムを目指し、今後とも外国籍住民、行政機関、医療機関、支援団体と協力していく体制を強化していくことが求められる。

最後に、「生活困難を抱える女子の性の健康」については、近年、男女児童ともに性問題行動を理由とする入所が増加している現状のなかで、性に関する個別指導を導入する施設が増えつつあるが、ヒアリングでは施設職員の研修の機会の不足についても言及されており、とりわけ地方で顕著であった。児童対象のプログラムの評価に関しては、生活環境上、性行動の変化が把握できないため、リスクのある性行動に至りやすい認知や感情、コミュニケーションスキルの改善等を評価することが考えられた。これらは日常場面の観察や記録、自己・他者評価等の質的データを活用する方向性が考えられる。

ラムの評価に関しては、生活環境上、性行動の変化が把握できないため、リスクのある性行動に至りやすい認知や感情、コミュニケーションスキルの改善等を評価することが考えられた。これらは日常場面の観察や記録、自己・他者評価等の質的データを活用する方向性が考えられる。

自己評価

1) 達成度について

研究課題によっては、数量データを根拠として予防介入プログラムを開発するには、まだまだ長いアウトリーチおよび調査の時間と多くの社会環境・制度の変化が必要である。本年度は予算の大幅な減額により研究班全体の計画の見直しを迫られ、計画変更に深刻な影響を与えたため、限られた時間と資源と法制度的制約の中で現実的な予防介入方法を確立するための質的調査を実施した。

「生活困難を抱える女子の性の健康」においては、昨年度調査について施設への還元ができた点、最終年度のガイドライン作成のためのネットワーキングを進められた点で、今年度の課題はほぼ達成されたと思われる。

「外国人」については、昨年度の成果を発展させる形で市民団体と行政が役割分担するプログラムを開発・実施できたことは画期的であり、本年度の研究計画がほぼ達成できたといえる。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

「個別施策層」でありながら、SW および外国人(とくにSW)への具体的かつ有効な予防対策・支援については、エイズ対策における「谷間」となってきた。当事者参加型かつ異職種間・学際的協働を重視する本研究は、調査研究と一般社会の溝を埋めるものであり、同時に被調査者の人権と尊厳を尊重するために必要である。また、外国人SWについてのこのようなアプローチは、国連レベルで問題になっている人身取引被害者の被害回復への手がかりにもなると期待される。さらには、性風俗業界における「素人/玄人のボーダレス化」が指摘されるなかで、性風俗への勧誘を受けた女子が63%にのぼり、性風俗への参与可能性が高い層として注目される児童自立支援施設の入所児童など、家庭や学校に属せない児童をエイズ対策の対象として位置づけ、教育研究を広く還元させられるものと思われる。

3) 今後の展望について

「個別施策層」に位置づけられながら、「性風俗産業の従事者及び利用者」に対する取り組みは、平成12～14年度に池上らが行った「日本在住のCSWにおけるHIV、STD 関連知識・行動及び予防・支援対策の開発に関する研究」(代表・木原正博)、平成14～16年度に水島らが行った「性産業従事者に関する対策の研究」

SW における予防対策の現状、および SW 当事者を中心とした支援対策と行政・NGO の連携に関する研究（代表・樽井正義）と引き継がれており、それぞれに重要な政策提案をしながら、いまだ組織的かつ継続的な対策にはつながっていない。本研究が「業態への変化への対応」「異業種間の協働」を実現する、キーパーソンとのネットワーク（＝諸問題を克服する研究の実施基盤）をもつことにより、従来にはない研究の成果が期待される。

結論

本研究を実施するにあたって経験される様々な困難は、禁止政策や法律によって生み出されているという意味では、国際社会で指摘される状況と一致しているが、個別施策層でありながら、ミクロ・メゾ・マクロすべてのレベルにおける関係者の中で性風俗産業における HIV 感染への危機感が希薄であるという点が、特に国内における阻害要因として指摘することができる。人権に配慮する点でも、また固有かつ有効な取り組みという意味でも、当事者コミュニティを中心とする異職種間・学際的協働によるタスクフォースによる取り組みの重要性を再認識した。

知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

特になし。

研究発表

研究代表者

東優子

(論文)

- (1) 東優子. セックスワークとHIV/AIDS. *Sex & Sexwork* 3 : 印刷中.
- (2) 東優子. 非典型的な「性」をめぐる性科学の言説, 第14期女性学連続講演会・ジェンダーを装う(大阪府立大学女性学研究センター): 48-70、2010年3月.
- (3) 東優子. 第9回アジア太平洋地域国際会議(インドネシア・バリ島) 遣事業帰国報告書 (http://api-net.jfap.or.jp/siryu/2009_aids_conf/07.htm), 2009.
- (4) 東優子. セックスワーク&HIV/AIDS. *Sex & Sexwork* 2 : 7-8, 2009.
- (5) 東優子. 調査報告書への考察. SOD Sex survey 2009～日本人の性意識/性行動の実態調査～ (<http://www.sodsurvey.jp/con06.php>), 2009.
- (6) 東優子. 「性の健康と権利」に関するグローバルな取り組み. 現代性教育研究月報 8: 1-5, 2009.
- (7) 東優子. セクシュアリティ概論. 専門家研修テキスト. 日本性教育協会, 2009.

(口頭発表)

海外

- (1) Higashi, Y., Kaname, Y., Yagi, K. (2010). Sexual Health Risks Faced by Female Sex Workers in Japan. National Conference of Sex Worker. June
- (2) Higashi, Y., Kaname, Y., Yagi, K., Nosaka, S., Aoyama, K. (2010). Sexual Health Risks Faced by Female Sex Workers in Japan. XVIII International AIDS Conference. July 18-23, 2010. Vienna, Austria.
- (3) Higashi, Y. and Kamikawa, A. (2009). The Impact of “GID” on Transgender People in Japan. The 21st Biennial Symposium of World Professional Association for Transgender Health. June 17 – 20. Oslo, Norway.
- (4) Higashi, Y., Suh S., Nosaka S. Condom use among Japanese heterosexual men utilizing the sex entertainment industry. The 19th World Congress for Sexual Health. June 21-25, 2009, Göteborg, Sweden .
- (5) Higashi, Y., Kamikawa, A. The impact of “GID” on transgender people in Japan. The 21st Biennial Symposium of World Professional Association for Transgender Health. June 17-20, 2009, Oslo, Norway.

国内

- (1) 東優子. 個別施策層としての「性風俗に係る人々」と性の健康. 第24回日本エイズ学会学術集会・総会, 2010.
- (2) 東優子, 野坂祐子. 女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス―“特定神話”の落とし穴―. 第29回日本思春期学会総会・学術集会, 2010.
- (3) コマファイ・ニコール, 榎本てる子, 東優子. 外国人留学生のHIV/STIに関する知識・意識調査. 第29回日本思春期学会総会・学術集会, 2010.
- (4) 東優子. 障がいのある人たちの「性の健康と権利」. リハビリテーション・ケア合同研究大会, 2010.
- (5) 東優子, 榎本てる子, 青木理恵子. セックスワーカーの保健行動阻害要因 コミュニティ参加型プログラムの開発に向けた一考察. 日本エイズ学会, 2009, 名古屋.
- (6) 野坂祐子, 東優子. 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルスの問題:web アンケートから. 日本エイズ学会, 2009, 名古屋.

研究分担者

野坂祐子

(論文)

- (1) 野坂祐子 犯罪被害者とジェンダー, 第二東京弁護士会両性の平等に関する委員会/司法におけるジェンダー問題諮問会議編「事例で学ぶ 司法におけるジェンダーバイアス 【改訂版】」, 明石書店, p.207-219. 2009.
- (2) 野坂祐子 子どもの性暴力への理解と支援 加害児・被害児の親へのサポート, 月刊ヒューマンライツ, No.263, 部落開放・人権研究所, 38-45. 2010.
- (3) 野坂祐子 デートDVの被害・加害への介入支援, 臨床精神医学, Vol.39, No.3, アークメディア, 281-286. 2010.
- (4) 野坂祐子 女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス―“特定神話”の落とし穴―, 現代性教育研究月報, Vol.28, No.2, 財団法人日本性教育協会, 1-6. 2010.

- (5) 野坂祐子 性暴力被害により PTSD を呈した成人女性への曝露療法 (Prolonged Exposure Therapy), 学校危機とメンタルケア, 第2巻, 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター, 28-34. 2010.
- (6) 井ノ崎敦子・野坂祐子 大学生における加害行為と攻撃性との関連, 学校危機とメンタルケア, 第2巻, 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター, 73-85. 2010.
- (7) 野坂祐子 共訳「質的研究法キーワード」, マイケル・ブルア, フィオナ・ウッド著, 監訳 上淵寿, (共訳者 上淵寿・大家まゆみ・小松孝至・榊原知美・丹羽さかの・野口隆子・野坂祐子・山本良子), 金子書房, Bloor, M. & Wood, F. (2006). *Keywords in Qualitative Methods: A Vocabulary of Research Concepts*. Sage. 2009.
- (8) 野坂祐子 HIV陽性者のストレスマネジメント ～グループワークの実践から～. 伝えたい・学びたい HIV カウンセリング, 第3号, 29-33. 新潟大学医学総合病院. 2010.
- (9) 野坂祐子 「おいしいセックス」と性の健康調査結果, CGS Newsletter, vol.13, p.10. 国際基督教大学ジェンダー研究センター. 2010.
- (10) 野坂祐子 不特定多数はホントにキケン?～女性のセックスと特定神話～, 特定非営利活動法人ふれいす東京 Newsletter, 2009年11月号, No.63, p.1. 2009.
- (11) 野坂祐子 連載「おんなのこの現場」～, ふえみん婦人民主新聞, No.2888-2908, 2009-2010.
- (12) 野坂祐子 エイズ四半世紀と私たち 切り捨てるのではない、抱える社会へ, ふえみん婦人民主新聞, No.2913, 2010年1月25日, 2010.

(口頭発表)

海外

- (1) Higashi, Y., Kaname, Y., Yagi, K., Nosaka, S., Aoyama, K. (2010). Sexual Health Risks Faced by Female Sex Workers in Japan. XVIII International AIDS Conference. July 18-23, 2010. Vienna, Austria.
- (2) Higashi Yuko, Suh Sookja, Nosaka Sachiko, Condom use among Japanese Heterosexual men utilizing the sex entertainment industry. The 19th WAS World Congress for Sexual Health. in Sweden. 2009.

国内

- (1) 野坂祐子・井ノ崎敦子・伊田和泰・田中久美子 児童自立支援施設における外傷体験と精神健康. 第29回日本思春期学会総会・学術集会, 2010.
- (2) 東優子, 野坂祐子. 女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス―“特定神話”の落とし穴―. 第29回日本思春期学会総会・学術集会, 2010.
- (3) 野坂祐子・東優子 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルスの問題:web アンケートから. 第23回日本エイズ学会学術集会 (日本エイズ学会誌, Vol.11, No.4, p.434(168)), 2009.
- (4) 野坂祐子 フィールドでサバイブする研究者の視点とふるまい, シンポジウム「フィールドにおける研究者の省察―研究者の実践経験の投影として―」, 日本心理学会第73回大会, 2009.
- (5) 浅野恭子・葛原昌司・藤岡淳子・野坂祐子・奥野美和子・保原智子・中島敦・丸山奈緒, 性問題行動のある子どもたちへの集団療法 (1) ―行動の変化をめざして―, 日本心理臨床学会 第28回秋季大会, 2009.
- (6) 藤岡淳子・野坂祐子・浅野恭子・葛原昌司・奥野美和子・保原智子・中島敦・丸山奈緒, 性問題行動のある子どもたちへの集団療法 (2) ―保護者のグループ―, 日本心理臨床学会 第28回秋季大会, 2009.
- (7) 岩切昌宏・瀧野揚三・野坂祐子 日本トラウマティックストレス学会プレコンgress「学校危機時の学校運営と心のケア―中長期支援に向けて―」, 第9回日本トラウマティックストレス学会, 2010.
- (8) 野坂祐子 被害者加害者対話が加害者と被害者にとって意味するもの, 第9回日本トラウマティックストレス学会, 2010.

榎本てる子

(口頭発表)

国内

- (1) コマファイ・ニコール, 榎本てる子, 東優子. 外国人留学生の HIV/STI に関する知識・意識調査. 第29回日本思春期学会総会・学術集会, 2010.
- (2) 東優子, 榎本てる子, 青木理恵子. セックスワーカーの保健行動阻害要因 コミュニティ参加型プログラムの開発に向けた一考察. 日本エイズ学会, 2009, 名古屋.

青山薫

(論文)

英文

- (1) Kaoru Aoyama. Migrants and the Sex Industry. in Kumiko Fujimura-Fanselow (ed). *Transforming Jap*

an: How Feminism and Diversity are Making a Difference. The Feminist Press at the City University of New York. Chapter 20, 2011 forthcoming.

- (2) Aoyama, Kaoru, 2010, 'Changing Japanese Immigration Policy and Its Effects on Marginalized Communities: A Sociological Perspective' in Journal of Intimate and Public Spheres, No.0

和文

- (1) 青山薫. 『性』をめぐる自由について—親密『権』を用いた検討』『自由への問い 生 生存・生き方・生命』所収. 岩波書店. 140-166, 2000.

(ポスター発表)

海外

- (1) Higashi, Y., Y., Kaname, Y., Yagi, K., Nosaka, S., Aoyama, K. (2010). Sexual Health Risks Faced by Female Sex Workers in Japan. XVIII International AIDS Conference. July 18-23, 2010. Vienna, Austria.

1

セックスワーカーとの協働による予防介入プログラムの開発と普及

研究分担者： 青山 薫 (京都大学文学研究科 GCOE 助教)

研究協力者： 要友紀子 (SWASH)

八木香澄 (SWASH)

研究要旨

「セックスワーカーとの協働による予防介入プログラムの開発と普及に関する研究」は、2010年度、首都圏および関西圏において、外国人SWに対する日本人SW当事者・支援者団体によるアウトリーチ活動および関係者への聞き取り調査を行った。2009年度の研究報告にあるとおり、不法性・触法性の高い外国人SWにかんしては、接近困難が短期プロジェクトで克服できるものではなく、予防介入の前提として、対象者との接触をもとめ人間関係の構築をはかると同時に相談機関としての信頼を得る、長期的な視野に立ったアウトリーチが不可欠である。そして、その過程で、できる限りの当事者への聞き取り、性産業施設の経営者や中間管理者、海外からの日本への渡航を仲介する業者など関係者の聞き取りを行い、質的データを蓄積することが必要である。これらの結果から、来年度の予防介入プログラム構築に向けて、当該層への現実的な予防介入にとって何が必要か仮説を立てた。なお、アウトリーチをすすめるなかでトランスジェンダーSWとの接触が生まれ、この人びとに対する個別施策の必要も伺われるようになった。

1. 研究目的

今年度の研究目的は、以下の3点。1. 昨年度に引き続き、首都圏および関西圏において外国人SWに対する日本人SW当事者によるアウトリーチを行いながら、できる限りの聞き取りも行うこと、2. 外国人SWへの接近困難をできるだけ克服するため、1以外にも、経営者や中間管理者をふくむ業界関係者に対する幅広い聞き取りを行うこと、3. 結果として現実的な予防介入にとって包括的に何が必要か、次年度のプログラム策定へ向けた具体的根拠をつかむこと、とした。

2. 研究方法

当事者へのアウトリーチ

昨年度に引き続き、SW当事者および支援者からなる団体SWASHほかのメンバーである研究協力者が、東京、大阪、京都の繁華街において中国人、韓国人が多く働く店舗(東京豊島区・新宿区、大阪北区の計13店舗)と飲食・就労についての情報交換をする場所(東京豊島区、大阪中央区・阿倍野区、京都東山区・左京区の計12店舗)、インターネットカフェ(東京新宿区の1店舗)の合計26店舗を一軒ずつ訪問。SW当事者に面会

できた場合は労働環境や安全衛生面、STI予防法や検査についてのアドバイスをを行いながら、調査の意義を説明。聞き取り協力者の募集も並行して行った。

その際、ツールとして以下を利用した。①昨年度作成し今年改訂したSWASH「はたらきかたマニュアル」、②やはり昨年度作成した調査協力の呼びかけ、③これまでのアウトリーチおよび調査活動の写真、④SW当事者としての仕事の経験の共有(性感染症や客の対応に苦勞してきたことなど)、④相手の出身国のSW支援グループと交流やネットワークがあること(共同行動の写真や相手の母語のウェブサイトと一緒に見ながら、相手国の事情も理解していることを示す)、⑤Sexbaサイト、SW向け携帯情報サイトの紹介、⑥多種コンドームの提供、⑦客に知られずにコンドームをつける方法など、サービス提供時の感染予防具体策を教示すること。

これらツールは、SWASHの活動および本調査に協力すれば時間をかけただけのメリットがある、そして、困難に直面した時に相談にのってもらえる、ということを実感してもらうためのものである。しかし、これらを使ったアウトリーチ自体が予防介入行為であることも明らかとなっている。

聞き取り調査協力者の募集

聞き取り協力者の募集については、上記アウトリーチで訪問した 26 店舗に加えて、2 か所の公共施設(京都国際交流会館・大阪国際交流会館)、HIV/AIDS 情報を提供している 2 か所のドロップ・イン・センター (Dista 大阪・新宿 Acta)、および、性産業店舗の集中する地域訪問、研究協力者 (SW 当事者) の知人を通して、『『セイフーアプレイ』の研究者協力者募集!』と銘打った名刺大の「募集カード」を配布した【別添資料 I 参照】。カードは、国籍や出身地を問わないかたちで、外国人 SW および経営者やボーイなど SW 以外の業界関係者にも呼びかけるものとし、同じ内容で、日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語、インドネシア語を用意。上記の個所で、研究分担者、協力者合わせて合計 420 枚を配布した。

また、同じ文面のものを、マッサージ求人広告を掲載している中国語紙(「中日新報」・「関西華文時報」の 2 紙)に広告として掲載。Twitter、SNS、ウェブサイト、メーリングリスト(合計 8 ネットワーク)を通して広告した。

聞き取り

アウトリーチ他の方法によって接触を得た外国人 SW と業界関係者のうち、聞き取りをお願いした人は計 45 人。しかしながら、聞き取りに応じてくれた人は計 8 人と非常に少なかった。聞き取りに応じてくれた 8 人の内訳は、中国人 SW3 人、韓国人 SW2 人、外国人パブマネージャー1 人、中国人風俗店雇われ店長 1 人、日中渡航仲介業者 1 人であった。

聞き取りは、あらかじめ用意した質問項目【別添資料 II 参照】に沿って、その場で不要と思われる項目は除きながら、対話をする形式のいわゆる「半構造的インタビュー」法により、研究協力者および分担者がそれぞれ別の場所(ファミリーレストラン、喫茶店、貸し会議室)で、対面で 1 人ずつ各 2 時間から 4 時間かけて行った。

使用言語はおもに日本語で、日本語があまり話せない韓国人 SW2 人については通訳の手配をした。通訳の選定に際しては、この分野の調査特有のプライバシーの問題などに意識が高い、韓国人の SWASH 関係者をお願いした。

倫理面への配慮

外国人 SW とその雇用者・関係者に関しては、とくに出入国管理法 2 条の 2 (在留資格と資格外就労) および風俗営業法第 4 条の 2 のル (風俗営

業の許可と外国人に不法就労をさせる罪) に抵触することを恐れている。これは、日本国籍をもつ SW や外国籍でも永住者・定住者・日本人の配偶者等の滞在資格をもっている SW とは違う条件である。このことにかんがみて、アウトリーチや聞き取り調査をすることが、彼女たちを公の調査や予防介入の手がまったく届かないような、いわゆる「地下」に追いやるきっかけとならないよう、より繊細にプライバシーへの配慮を図る必要がある。

したがって、本報告書においても聞き取りの全文を添付し公開することはできない。

3. 研究結果

アウトリーチと聞き取りの結果、以下のことが浮かび上がってきた。2005 年の人身取引罪の創設、風俗営業法の雇用者に対する被雇用者の滞在資格確認義務の創出などの結果、性風俗産業全体に対する取り締まりが強化された。そこに 2008 年以降の経済状況の悪化が重なって、好条件の職を得るための競争が激化し、それを保障してくれそうな仲介業者や雇用者によるあっせんや契約、前借金などを受け入れざるを得なくなり、結果として、はじめの意図とは裏腹な悪条件で働くことになる問題がある。

売春防止法にも違反する膣ペニス性交や、風俗営業法的法範囲内の性交類似行為において、コンドームを使用しないサービスを提供する SW たちは、HIV/STI 感染の知識がないからそうするのではなく、感染の不安におびえながらも、上記の事情から不可抗力的にそうしている傾向があると思われた。また、店によっては、性感染症に関する知識はあるにもかかわらず、客の指入れなどによって膣内に入った菌をビデで洗い流せば「安全」といった、「気休め」ともとれる誤った対策が SW のあいだで流布していた。

しかし対照的に、婚姻などを通じて日本社会に定住し、「日本人の配偶者等」など資格外労働に問われることのない法的に安全な滞在資格を得たうえで、風営法の下で合法である性風俗産業で働く人ができている。この場合(言葉の壁もそれほどない場合)、彼女たちは少なくとも日本国籍の SW と同程度の交渉力を持ち得る。その結果、たとえば本番行為を客に迫られたとしても、あるいは

は性交類似行為をする場合にもコンドームが使用できるような、比較的安かつ HIV/STI 予防に効果的な条件で働く傾向にあった。

また、中国、韓国からの移住者の場合、同国出身者一般のコミュニティと性産業従事者のコミュニティが分断されており、SW としての生活実態を公にすることは難しいという傾向が見られた。

4. 考察

まず、圧倒的多数の接触者が聞き取りへの協力を断ったことに注目したい。

アウトリーチで出会い近しくなることができた SW や関係者も、外国人の場合、記録を残されることを忌避する傾向が顕著である。法執行機関による摘発を恐れているからだ。聞き取りを断るおもな理由は、雇われ店長などそふくむ経営者側（12人）の場合は、代弁型（「女の子たちは何も困っていない」、「話しながらない」などと言う）、警戒型（「警察や入管に摘発されるのが怖い」などと言う）、諦念型（「調査をしても何も変わらない」、「性風俗に危険な側面があるのは日本社会のせい」などと言う）があった。SW（25人）の場合は全員、とくに理由は述べず、みずからの国籍などのアイデンティティもほとんど明かさず、とにかく警戒し、嫌がっていた。

聞き取りに応じてくれた日中渡航仲介業者の意見によれば、本調査の主旨や目的が外国人 SW には「信用できない」、あるいは「自分たちに直接の利益がない、と思うだろう」ということであった。前者の「信用できない」だろうという理由は、中国からの移住者の場合に限るが、大学や公的機関に関係する調査研究が国家の政治的意図に必ず結びついているという、母国での経験的印象から、日本の調査研究（者）もたとえば触法・不法行為を法執行当局に告発するためにする／いるものと思うからだ、というものであった。

また、SW たちが SW として同国出身者一般のコミュニティでカムアウトできないでいるということは、このなかで一般に見られる支え合いが、SW 特有の安全や衛生が危機にさらされる問題には届かないことを意味する。外国人 SW は、日本社会の法的地位が弱い外国人のなかで、さらに脆弱な立場にあるのである。

さらに、SW たちは、雇用者や管理者、同僚な

どによる排除をも恐れている。したがって、SW 当事者を媒介者とするにせよ、ある程度公な予防介入を歓迎するよりは、問題を公にせず、すでにある地下経済社会とのつながりでさまざまな困難を解決しようと試みる傾向になってしまう。たとえば、病を得て治療費に困っても、客からの暴力・ストーカー被害に遭っても、あるいは合法的に働くための日本滞在資格を求める際にも、仲介業者やいわゆるヤクザに仲立ちしてもらい以外に彼女たちにはよりどころがない。この、仕事や収入を確保しながら公に援助をもとめるべきがないことが、HIV/STI 予防介入はもとより、外国人 SW の安全と人権の保全を難しくしている。

以上から、社会学的な観点に立って、数的データを根拠とするプログラムを提言するよりも、社会的排除を受けているマイノリティ調査に効果的な、当事者調査者の記録などをふくむ質的データを重視する方向性を、本研究プロジェクトとして探る必要があると節に考える次第である。

5. 自己評価

達成度について

外国人 SW については、上述のように、数量データを根拠として予防介入プログラムを開発するには、まだまだ長いアウトリーチおよび調査の時間と、多くの社会環境・制度の変化が必要である。限られた時間と資源と法制度的制約の中でこの調査を進め、現実的な予防介入方法を確立するには、質的データに重きを置く必要がある。

研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

初年度から変わらない点であるが、当事者 SW 自身が介在するプログラムは、日本ではいまだ行われていない。しかし、ヨーロッパやオーストラリア、ニュージーランドでの先例に倣うならば、このアプローチはまず調査研究と一般社会の溝を埋めるものであり、同時に被調査者の人権と尊厳を尊重するために必要なものであり、それゆえに、現実的な性感染症予防効果をあげるはずのものである。

それを意識して、調査方法論的にさらに考察を深め発展させていく必要がある点として以下をあげておきたい。とくにアウトリーチによって信頼関係を築き、その結果対象者から相談を受けた場合には、相談者から得た情報を第三者に漏れいし

ないことが鉄則となる。調査者と相談者の両方の役割を果たすことができるのは当事者集団の長所であり、これを本プロジェクトは利用しているのだが、ふたつの役割は情報の公開と秘匿のどちらを優先するかの点で矛盾せざるを得ない部分がある。下記「今後の展望」にも関係するが、この点を何らかの形で克服する提案がプロジェクトの次の段階で可能になれば、保健衛生・疫学・社会学など、この分野に係る学際的な調査一般に対する貢献になものと思われる。

さらに、外国人 SW についてのこのようなアプローチは、国連レベルで問題になっている人身取引被害の予防、被害者の被害回復への手がかりにもなるだろう。

今後の展望について：予防介入プログラムのための仮説

上記「研究成果の学術的・国際的・社会的意義」をふまえ、外国人 SW に関してある程度の数のインタビューを集めることができ、質的に多角的かつ深い分析ができるものであれば、研究協力者とともに開発する予防介入プログラムにとって、大きな具体的根拠になるだろう。

冒頭「概要」で触れたトランスジェンダー SW については、本研究のいわゆる「スピン・オフ」プロダクトとも言える新たな個別施策層の「発見」である。現在、エイズ対策事業としても、社会科学領域でもほとんど光を当てられていない TGSW が抱える問題については、TG であること自体がもたらす社会的排除の困難——顕著な具体例として、性風俗産業以外に収入を得るすべがない人が多いことなど——があり、適切なアプローチをさらに開拓する必要がある。

6. 結論

外国人 SW に関する調査研究・予防介入の接近困難は再三指摘されてきたが、社会的・文化的・法制度的な要素からなるもので、数年単位で解消するものでも調査者の努力で乗り越えられるものでもない。経済状況の悪化は、移住者・社会的に排除される立場にある性産業従事者、わけてもとくに脆弱な立場にある外国人 SW を、より非公的な場へ、あるいは「一般」社会からより切り離されたところへ追い込む。性産業への取り締まりが厳しくなればこの傾向は強まるばかりである。

当事者 SW が媒介する調査がここでもっとも効果を発揮する点は、数的な結果を出そうとすることとは思われない。そうではなく、アウトリーチを重ねることと、そこから生まれる対象者との人間関係を発展させ、相談機関としての信頼も得ながら、質的なデータを蓄積して予防介入の道を探ることこそ現実的であろう。

7. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）とくになし。

研究発表

研究分担者
青山薫

論文
欧文

1. Aoyama, Kaoru. "Migrants and the Sex Industry." in Kumiko Fujimura-Fanselow (ed). *Transforming Japan: How Feminism and Diversity are Making a Difference*. The Feminist Press at the City University of New York. 284-301, 2011.

和文

1. 青山薫. 「『性』をめぐる自由について—親密『権』を用いた検討」『自由への問い 生存・生き方・生命』所収. 岩波書店. 140-166, 2010.
2. 青山薫. 「セックスワーカーの人権・自由・安全」『ジェンダー社会科学の可能性』所収. 岩波書店. 第一巻 II - 2, 2011 (予定).

口頭発表
海外

1. Higashi, Yuko; Kaname, Yukiko; Yagi, Kasumi; Nosaka, Sachiko; and Aoyama, Kaoru. "Sexual Health Risks Faced by Female Sex Workers in Japan." *XVIII International AIDS Conference*. The Messe Wien, Vienna, Austria. 20 July 2010.

国内

1. 青山薫. 「二項対立的思考を逃れる実践—『セックスワーク論』と当事者参加調査を題材に」. 京都大学文学研究科 GCOE 『第 4 回フィールド調査班アド・ホック研究会 (継承・生き延び研)』. 京都大学時計台国際交流ホール. 2010 年 9 月 30 日.
2. Aoyama, Kaoru. "Sexworkers Who Stay Tomorrow: Sexualised Migrants and Their Survival Strategies." In the Conference on *Sexual Boundary Crossings and Sexual Contact Zones in East Asia*. Institute of Comparative Culture, Sophia University. Oct. 2, 2010.
3. 要友紀子・八木香澄・青山薫. 「海外のセックスワーカー運動 2010」. 第 24 回日本エイズ学会学術集会. グランドプリンスホテル高輪

ザ・プリンス さくらタワー東京. 2010 年 11 月 25.

4. 青山薫. 「性産業のなかの移住者」. 京都大学文学研究科 GCOE 移動プロジェクト研究会. ホテルサンルート彦根会議室. 2010 年 12 月 19 日.
5. 青山薫. 「排除される側から見る『共生』の限界—移住セックスワーカーの現在」. 交響するアジア第 1 回国際シンポジウム『東アジア「共生」学の探求—共に生き、共に学ぶ』. 富山国際会議場. 2011 年 2 月 14 日.

資料

セーフプレイの
リサーチ協力者募集!

性風俗で働く人びとの安全と権利を守るため、仕事の条件や安全性、良い点、悪い点、業界でどうやって生き延びていくか、プライベートとのバランス、などについての聞き取り調査にご協力ください。ワーカー、ボーイ、店長、経営者など、どんな職種の方でも、日本、中国、韓国、タイ、フィリピン、ロシア、アメリカ、AZ/NZ、ヨーロッパのどこかなど、どんな国籍の方でも歓迎です。

あなたのプライバシーは厳重に守ります。ご連絡ください。

神戸大学准教授 青山薫 080-3439-1756

Dicari Begeral Kami sedang mencari responden yang bisa membantu untuk mengisi angket dan bersedia diwawancara tentang safer play (seks dengan aman). Kami mohon bantuan untuk mempromosikan hak dan keamanan bagi PSK dan orang-orang yang bekerja di sektor seks. Angket tersebut berisi tentang kondisi pekerjaan keamanan dalam pekerjaan, sisi baik, sisi buruk dan bagaimana supaya pekerjaan di sektor seks ini bisa berlanjut, keseimbangan dengan waktu pribadi, dan lain-lain. Responden angket ini boleh siapa saja contohnya PSK pria, managernya, pemilik tempat dan lain-lain. Kami juga menerima responden dari bermacam-macam bangsa seperti Jepang, Cina, Korea, Thailand, Filipina, Rusia, Amerika, AZ/NZ Eropa dan yang lainnya. Kami berjanji dengan sungguh-sungguh untuk melindungi kerahasiaan pribadi anda.

Ibu Kaoru Aoyama (Associate Prof., Graduate School of Intercultural Studies, Universitas Kobe)

Nomor Telepon: 080-3439-1756

NANGANGAILANGAN PO KAMI NGMGA TAONG SA-SAGOT SA MGA KATA NUNGAN SA MGA KONDISYON NG AMINE TANONG .

NANGANGAILANGAN PO KAMI NGMGA TAONG SASAGOT SA MGA KATA NUNGAN SA MGA KONDISYON NG AMINE TANONG . TUNG KOL SA INYONG KARANASAN AT NAKARAAN NYONG TRABAHONG HANDA PO KAMING BAYARAN ANG INYONG ORAS . NA KAHIT ANONG BANSA ANG KASURIAN KATULAD NANG CHINESE , KOREAN , THAI , FILIPINO , Russian , America , European , AT IBA PA .

(KAORU) AOYAMA ASSOCIATE PROF GRADUTE SCHOOL OF Intercultural Studies (KOBÉ) University

on 080-3439-1756

안전한 성행위에 대한 연구

우리는 산업현장(업소)에서 일하고 있는 사람을 찾습니다. 당신이 일하는 환경, 당신의 직업에 대한 좋은점과 나쁜점, 종사자, 웨이터, 매니저, 사장(주인) 등 어느 직책이든 환영합니다. 어느 국적이든 환영합니다. 특히 중국분, 한국분, 태국분, 필리핀분, 러시아분, 유럽분, 미국분, 호주/뉴질랜드분, 일본분 성노동자의 권리와 안전을 증진하기 위한 우리 연구에 협조 부탁드립니다.

개인사생활과 비밀보장 철저히 해 주시합니다.

연락처 : 가오루 아오야마(고베대학교 다문화연구대학원 조교수)

セーフプレイの
リサーチ協力者募集!

性風俗で働く人びとの安全と権利を守るため、仕事の条件や安全性、良い点、悪い点、業界でどうやって生き延びていくか、プライベートとのバランス、などについての聞き取り調査にご協力ください。ワーカー、ボーイ、店長、経営者など、どんな職種の方でも、日本、中国、韓国、タイ、フィリピン、ロシア、アメリカ、AZ/NZ、ヨーロッパのどこかなど、どんな国籍の方でも歓迎です。

あなたのプライバシーは厳重に守ります。ご連絡ください。

神戸大学准教授 青山薫 080-3439-1756

Research on
Safer Sex Work

I am looking for people working in the industry. Answer questionnaires about working conditions, the good side and bad side of the job, skills for survival, etc. Any job title, Worker, Waiter, Manager, Owner, etc. welcome. Any nationality welcome esp. Chinese, Korean, Thai, Filipino, Russian, European, American, AZ/NZ, and Japanese. Please, help us to promote sex workers' rights and safety!

Contact: Kaoru Aoyama (Associate Prof., Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

on 080-3439-1756 Strictly private and confidential.

Research on
Safer Sex Work

I am looking for people working in the industry. Answer questionnaires about working conditions, the good side and bad side of the job, skills for survival, etc. Any job title, Worker, Waiter, Manager, Owner, etc. welcome. Any nationality welcome esp. Chinese, Korean, Thai, Filipino, Russian, European, American, AZ/NZ, and Japanese. Please, help us to promote sex workers' rights and safety!

Contact: Kaoru Aoyama (Associate Prof., Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

on 080-3439-1756 Strictly private and confidential.

Research on
Safer Sex Work

I am looking for people working in the industry. Answer questionnaires about working conditions, the good side and bad side of the job, skills for survival, etc. Any job title, Worker, Waiter, Manager, Owner, etc. welcome. Any nationality welcome esp. Chinese, Korean, Thai, Filipino, Russian, European, American, AZ/NZ, and Japanese. Please, help us to promote sex workers' rights and safety!

Contact: Kaoru Aoyama (Associate Prof., Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

on 080-3439-1756 Strictly private and confidential.

Research on
Safer Sex Work

I am looking for people working in the industry. Answer questionnaires about working conditions, the good side and bad side of the job, skills for survival, etc. Any job title, Worker, Waiter, Manager, Owner, etc. welcome. Any nationality welcome esp. Chinese, Korean, Thai, Filipino, Russian, European, American, AZ/NZ, and Japanese. Please, help us to promote sex workers' rights and safety!

Contact: Kaoru Aoyama (Associate Prof., Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

on 080-3439-1756 Strictly private and confidential.

招募「SAFER PLAY」
调查的合作者!

为了促进在性风俗行业工作的人们的安全及权利，我们将就有关劳动条件、安全性、益处、坏处、在此行业如何幸存下去、与个人的均衡关系等方面进行问卷调查及听取调查。敬请协助。无论您是男服务生、店经理、还是经营者；无论您是来自日本、中国、南韩、泰国、菲律宾、俄罗斯、美国、阿塞拜疆、新西兰、欧洲，我们对从事任何工种、来自任何地区、任何国籍的人，都将热情欢迎。

我们将严守您的个人隐私。敬请与我们联系。

联系人 神戸大学
副教授

青山薫 080-3439-1756

セックスワーカーとの協働による予防介入プログラムの開発と普及に関する研究
半構造化インタビュー基本項目（2010 年度）

調査者の注意事項

1. 録音の許可を取る。
2. 録音許可のない場合は、なるべく詳しいメモを取る。
3. その場でのメモの許可がなければ、対象者と別れた後、時間をおかずに思い出して書き留める。
4. 「学術的なアンケート調査です」と言う構えではなく、アイスブレイキングとして、「外国人 SW の労働生活条件改善のために調査しています。あなたのことと日本のことと仕事のことについて訊かせてください」と言う構えで、話の流れ（間主体的関係に基づいて）で質問をする。
5. プライヴァシーを守ること、警察や入管とは一切関係がないこと、答えたくない質問には答えなくていいことを最初に伝える。
6. 上記、話の流れのなかで、訊きづらい項目は訊かないでよい。また、加えたいことはつけ加えて訊いてよい。

質問事項

- 1) 自分について
 - 1 年齢
 - 2 出身地（国・県／州／道などまで）
 - 3 性別
 - 4 結婚歴
 - 5 何年くらい学校に通ったか
 - 6 何が好きか、嫌いか
- 2) 日本について
 - 7 いつ来たか
 - 8 何回目か
 - 9 前はいつか
 - 10 前はなぜ帰ったか
 - 11 今回はなんの目的で来たか
 - 12 日本で暮らすうえで困っていることは
 - 13 日本で危険を感じたことは
 - 14 日本の警察、入管、その他の役所と接触したことはあるか
 - 15 ある場合、なぜか、どう感じたか
 - 16 彼らに要望はあるか
 - 17 他の日本人のグループ（店の関係者・客以外）と接触したことがあるか
 - 18 ある場合、なぜか、どう感じたか
 - 19 彼らに要望はあるか
 - 20 今後どれくらいの期間、日本にいるつもりか
 - 21 日本の気に入っているところは
 - 22 日本の嫌なところは
- 3) ヴィザについて
 - 23 今回何ヴィザで入国したか
 - 24 現在は何ヴィザをもっているか

- 25 現在のヴィザの期限はきれていないか

- 4) 今回日本に来るための仲介者について
 - 26 仲介者がいたか
 - 27 使った場合は誰か（業者・親戚・友だちなど）
 - 28 3の人は、誰の紹介か
 - 29 お金ははらったか
 - 30 払った場合はいくらか
 - 31 そのために借金をしたか
 - 32 した場合、どうやって返したか
 - 33 仲介者とのトラブルはなかったか
 - 34 あった場合どんなトラブルか
 - 35 仲介者がいなかった場合、どうやって日本に来たか

- 5) 家族について
 - 36 出身地に家族はいるか
 - 37 いる場合構成は
 - 38 日本に家族はいるか
 - 39 いる場合構成は
 - 40 家族はあなたの今の仕事をしているか
 - 41 誰か今の仕事を知っていて応援してくれる家族はいるか

- 6) 仕事について
 - 42 今の職種は（デリヘル・パブ など）
 - 43 1日／1週間何時間くらい働くか
 - 44 今の店は何件目か
 - 45 2件目以降の場合は、なぜ前の店を辞めたか
 - 46 今のボス／ママは誰か（国籍・性別・本人との関係（親戚・友人？） など）
 - 47 ボス／ママとの関係はいいか
 - 48 どこがいいか／悪いか
 - 49 週に何回くらいボス／ママと会うか
 - 50 ボス／ママはどこに住んでいるか
 - 51 今の仕事場の規則を教えて
 - 52 罰金があるか
 - 53 あるとしたらどんな
 - 54 今の仕事で、避妊・性感染症予防の方法は何か
 - 55 避妊・性感染症予防がしにくいことはないか
 - 56 しにくい場合、それはなぜか
 - 57 他に仕事の上で問題はあるか
 - 58 今の仕事はホンバンありか
 - 59 ホンバンをふくみ、自分で何ができるかできないかを選べるか
 - 60 今の仕事で一番嫌なことは何か
 - 61 一番好きなことは何か
 - 62 今までに工作中危険な目にあったことがあるか
 - 63 あった場合、何か（客の暴力、事故など）
 - 64 今の仕事についてどう思っているか
 - 65 今の仕事を辞めたら何をしたいか
 - 66 性産業以外の仕事をしたことがあるか

67 それは何か

7) お客との関係

- 68 お客との関係は良いか
- 69 良い場合、悪い場合、なぜか
- 70 お客と恋愛関係になったことはあるか
- 71 その時どうしたか
- 72 お客にされた嫌なことはなにか
- 73 お客にされて嬉しかったことはなにか

8) お金について

- 74 収入はだいたいどのくらいか（月収、日収、年収など）
- 75 主な使い道はなにか
- 76 普段自分のためにいくら使うか
- 77 貯金はたまったか
- 78 何のための貯金か
- 79 お金が足りない時どうするか（貸してくれる人がいる、など）

9) 健康について

- 80 今の仕事場で健康診断はあるか
- 81 ある場合はいつ、どこで
- 82 誰が検診のお金をはらうか
- 83 今健康の問題があるか
- 84 過去に健康の問題があったか
- 85 健康のことでとくに注意しているのは
- 86 日本の健康保険に入っているか
- 87 自分で健康保険や事故・災害保険・生命保険に入っているか

10) 住居について

- 88 どの、どんな家に住んでいるか（おおまかに）
- 89 日本で住居を見つけるとき困ったことは
- 90 今の住居をどうやって見つけたか
- 91 引っ越しするとしたらすぐできるか
- 92 できない場合はなぜか
- 93 近隣の人と付き合いはあるか
- 94 ない場合はなぜか

11) 人間関係について

- 95 親しい友だちは誰か
- 96 なぜ親しいのか
- 97 困ったことがあったらその友だちが助けてくれるか
- 98 その友だちはあなたの今の仕事のことを知っているか
- 99 日本人とつきあいがあるか
- 100 それは誰か（夫の親兄弟など）
- 101 その関係は良好か
- 102 その人たちはあなたの今の仕事のことを知っているか
- 103 他にとくに大切にしている関係は誰との関係か
- 104 それはなぜか

12) その他

105 休みの日や余暇時間に何をするか

106 今後、3年後、10年後、30年後に、何をしていると思うか、していきたいか

107 最後に何か言いたいことがあれば何でも

ご協力ありがとうございました。

2

性風俗に係る人々の HIV 感染予防・介入手法に関する研究

トランスジェンダーSWの性行動・意識に関する調査

研究分担者： 東 優子（大阪府立大学）

研究協力者： 小山ケイ（SWASHtg）・ぼんぼんまる（SWASHtg）・綾瀬麗次（SWASH）・
恵（SWASHtg）

研究要旨

世界で HIV 感染への脆弱性が最も高いとされているのは、男性とセックスをする男性（MSM）・静注麻薬使用者（IDUs）・セックスワーカー（SW）とその顧客である。SW の一般的なイメージは、「風俗嬢」といった女性従業員（FSW）であるが、実際には MSM やトランスジェンダー（TG）など、様々な属性がみられる。

MtFTG（Male-to-Female=男性から女性へのトランスジェンダー）については、社会的スティグマ、差別・偏見を背景とする複合差別ゆえの様々な「生きづらさ」に直面し、HIV 感染、暴力、およびその他の健康問題を含めた様々な側面で FSW よりも高いリスクに曝されていることが諸外国の先行文献において指摘されている。しかし、現行のサーベイランス・システムにおいて MtFTG は MSM に分類されてしまうことから、その実態は正確に把握されていない。とくに先行研究がほとんど存在していない国内においては、固有なニーズについての検討と対応がなされていない状況にある。

そこで本研究では、国内における当該集団の HIV/STIs に対する感染脆弱性と予防対策および支援ニーズを把握することを目的とする調査を実施した。調査主体となったのは、SW 当事者と支援者で構成されるアドボカシー団体 Sex Work and Sexual Health（以下、SWASH）のトランスジェンダー・ユニット（SWASHtg）である。方法は、1）自記式質問紙調査（N=43）と、2）質問紙調査に重ねて一部の協力者（N=37）に対して追加的に実施された半構造化面接調査（分析未了）である。調査期間は 2010 年 12 月～2011 年 2 月であった。

本稿では、1）自記式質問紙調査の結果として、1-1.回答者の基本的属性、1-2.ジェンダー・アイデンティティの多様性、1-3.提供しているサービス内容、1-4.コンドーム使用率、1-5.性感染症・HIV 抗体検査の受検率、1-6.性感染症の罹患経験、1-7.仕事上の不快な経験を報告する。さらに量的調査の考察を補完することを目的として、2）質的調査（分析未了）より、2-1.TGSW とは誰か、2-2.NH の顧客層、2-3.保健所の検査供給率が低い理由、2-4.戦略の有効性にみる日本とアジアの違い、2-5.支援システムに関する当事者ニーズ、に関する調査結果を抜粋して紹介する。

研究の背景

世界で HIV 感染への脆弱性が最も高いとされているのは、男性とセックスをする男性（MSM）・静注麻薬使用者（IDUs）・セックスワーカー（SW）とその顧客である。一般に SW と言えば女性（FSW）である印象が強いが、実際のセックスワークには FSW 以外にも、MSM やトランスジェンダー（TG）など、様々な人々が従事している。

歴史・文化的にみれば、日本はトランスジェンダー現象に寛容・受容的な側面をもつ（三橋, 2008）。1980 年代に造語された「ニューハーフ」は「ミスター・レディー」という言葉とともに、1990 年代のテレビ番組を通じてお茶の間に広く知られるところとなった。2011 年現在も、エンターテインメントの担い手としての MtFTG（Male-to-

Female=男性から女性へのトランスジェンダー）は、高い人気を維持しているといえる。しかし、こうした日本の歴史や文化、華やかな芸能界あるいは接客業界（水商売）の話題と、一般社会に暮らす TG の日常生活には非連続性が認められ、社会的スティグマによる負の影響は様々な存在していることが指摘できる。

一般社会に暮らす TG の「生きづらさ」が注目されるようになったのは、埼玉医科大学倫理委員会が「性転換手術の医学的正当性」を認める答申を提出した 1990 年半ば以降のことである。またこれを契機に、医学概念である「性同一性障害」が広く社会的に認知されることとなった。2004 年には「性同一性障害特例法」が施行され、一部の行政で不必要な性別欄を削除する動きがみられるなど、国内では様々な変化が起こっている。2010 年 4 月には、文